

白山ふるさと文学賞

第十回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

# 母の力になりたい

明光小学校五年

若林 わかばやし

優 ゆう

母の力になりたい。前からそう思っていました。

小学三年生の時、母が風邪をひいてしまって、私が妹の面倒を見たり家事をしなければいけなくなった時がありました。家事の手伝いは前からしていたので大丈夫だと思っていたけれど、一日続けるとなると、まだ小学三年生だった私にとって「家事を続けるのってこんなに大変なんだ」と感じました。

本当に、小さな出来事だったのだけど、その時の私にとっては家事の大変さがよく分かった大きな出来事だと感じたのかもしれない。私はその時から、母の力になりたいと思っていました。

母は休日以外、大体仕事と家事をしています。もちろん母としゃべる時間もあります。今日の出来事とか、明日のこととか、真けんに話を聞いてくれるので、私は母としゃべるのが大好きです。

母は毎日家事をしていて、大変だろうし、つかれるだろうし、私だったら毎日家の仕事をするなんてきつと無理です。でも、それでもがんばっている母を見ると、私も家の仕事をもっと手伝うようにしようかな、といつも思っています。

ある日、母が

「自分の作る料理よりも、他の人が作る料理の方が好きだな。」  
と言っていたので、久しぶりに母に料理を作ってあげると、とてもよこんでくれました。久しぶりに母の笑顔を見た気がしたので、私もうれしくなりました。

いつの日か、私は母にしようらいの夢のことを話した時がありました。笑われるかな、と思っていたけれど真けんに話を聞いてもらえて、応援してくれたので、さらにその夢を叶えたいと思いました。

母との思い出は数えきれないほどたくさんあって、その中にはケンカした思い出も、うれしかった思い出もあります。これから母と、たくさん思い出を作っていきたいと思います。

私は「母の力になりたい」と思うほど、母に感しゃをしていて、母の

ことが大好きです。普段は言えないけれど、母の笑った顔を見るのが大好きです。母が楽しそうにしていると私もうれしくなります。これからも笑顔でいてほしいし、元気でいてほしいです。

私がまだ小さかった頃に、母は私の面倒を見ると、家事をするのと、仕事に行くのでも大変だった時期があったそうです。それを聞いて私は、今の母にもっと感しゃしようと思いました。いつも家族のために料理を作ってくれてありがとう。色々な所に連れていってくれてありがとう。勉強を教えてくれてありがとう。朝起こしてくれてありがとう。いつも私のことで心配ばかりさせてしまっているけれどたまにはのんびりして、ゆっくり休んでほしいと思います。

私がまだピアノを習っていたころ、グレードと言う試験のような感じの行事がありました。三年生の時のグレードで、家族がたくさん応援してくれていたのになかなか良い成果を出せなかった時がありました。グレードの日のために、たくさん練習をしておいたのに失敗ばかりしてしまつてとてもくやしかったのを覚えています。

ひかえ室にもどつて泣いてしまった私を、母はたくさんぐさめてくれました。グレードで失敗してしまったのは残念だったけれど母のいい思い出になったな、とも感じています。

その日、家に帰るともう夜おそくなっていました。母は運転でつかれただろうに、夕飯を作ってくれました。その日の夕飯はシチューでなぜかいつもより美味しく感じたのを覚えています。母がたくさんしゃべりかけてくれるので、心配してくれているんだなあと分かりました。シチューは、とてもあたたかくて優しい味がしました。

私は、母がいつも近くに来てくれたから今の私がいると思っています。文句も言わずに家事を毎日してくれる母に、「私も、もっと家事を手伝うようにしようかな。」と思いました。真けんに私の相談にのってくれる母に、「私もお母さんの力になりたいな。」と思いました。お母さんいつもありがとう。ふだんは少し照れくさくて、なかなか言えないけれど、今

回の作文で、たくさん「ありがとう」の思いを形にすることが出来たと  
思います。

母にはこれからも、たくさん心配かけるしめいわくをかけてしまうけ  
れど、ちゃんと感しゃしています。笑ってばかりの母も、たまにはゆっ  
くりして休んでほしいと思っています。

いつも家事をしてくれたり、私の相談にのってくれたり、辛いことが  
あったら「大丈夫だよ。」とせなかをおしてくれて本当に感しゃします。  
母が私の力になってくれたように、私も「母の力になりたい」と強く思  
います。

